

## 11月20日の活動報告

4時30分、目が覚める。

外はまだ真っ暗だ。寒さと眠さ（そして二日酔い、なぜならば前日に中央公民館のステージでこれまでの僕らの活動報告をした。そのあと例のごとく…）でいうことを聞かない体にムチを打ち準備をする。しかし、いつまでたっても外は明るくならない。結局、集合時間の6時ごろでもまだ暗かった。2週間前の登山の時はまだ明るかったのに。すっかり日が短くなったなど少し寂しくなる。

この日のメインは「復興食堂」のイベントのお手伝いである。このイベントは、岩手県が主催し、「世代間交流ふれあいフェスタ」として、「いわて三陸・復興食堂・野田村総合センター店」をオープンした。復興食堂実行委員会が主催する「復興食堂」は各被災地でイベントを行っている。今日のメニューは、地元の方による餅つき、地元福来豚、復興食堂オリジナルのタコ焼きそば、岩手まめぶ汁と青森せんべい汁の対決、などのヨダレの出そうないろいろ。それに、地元の「合唱団コールわさらび」の合唱、囲碁・将棋クラブ、昭和の遊びクラブ、健康チェック…まだまだあるが、書ききれない。とにかく、楽しそう。

6時15分、出発。

バス2台、総勢84名で野田村へ向かった。活動内容は①押し花教室、②松ぼっくりツリー制作、③リンゴ400個・リンゴジュース・靴下（弘前市民の手編み）の配布、④仮設住宅への物資の配達、⑤その他復興食堂運営サポートといろいろなことを行った。①、②は総合センター室内で、③は外のテントでの活動だった。④は新潟中越地震で被害を受けた新潟県小千谷のグループからチーム・北リアスに届いた野菜・米を、各仮設住宅に届けるのだ。



84名のボリューム！マンパワー炸裂だ。



チーム・北リアスの拠点にて、配布用の野菜の数を数えています。

9時30分、野田村役場前到着。

天気予報は曇りのち雨。しかし現地は晴れ！さすが！ 天気まで僕らを歓迎してくれているみたいだ。一方で、僕らの人数はちょっと多すぎたか、と心配していたが、「こっちに来て」「あれ運んで」「受付やって」などと引っ張りだこ。到着早々、いい調子。黄色いジャンパーと緑のビブスが会場のあちこちに散らばった。

11時、イベント開始！

村の方たちがたくさん集まってきた。今まで活動してきた人にとっては顔なじみも多く、久しぶりに元気な様子を見て話も盛り上がる。一方、リンゴのテントにはながーい列が。400個のリンゴはわずか40分でなくなった。そのほかの活動も順調で、押し花と松ぼっくりツリーは子どもからお年寄りまで、多くの人で絶えずにぎわっていた。



リンゴ配布コーナーも大人気。4種類のリンゴたちが並びます。



松ぼっくりツリー作りに熱中する子どもたち。

12時、バスに弁当が届く。

いつもお世話になっている米田さんがおぼろ豆腐も作って持ってきてくれた。「なんてうまいんだ」、涙が出そうになる。交代で昼食をとるのだが、みんな忙しすぎてなかなか交代できない。遅い人は13時、14時になってしまった。しかしそれだけみんなに役割があった。なかなかご飯を食べに行かずに子どもと遊んでいた人もいたり。

14時、昼食を終えて午後の活動に。

午前中で活動を終えたリンゴなどの配付班、仮設住宅への物資配布班、会場内での物資配布班などもあちこちに分散し、メインステージでのイベントにおいても盛り上げ役として存在感を示していた。15時に終了の予定だったが、どこも売り切れ続出で早めに撤収が始まっていく。

15時、終了！

会場の片づけまでしっかり行いバスに乗車。それまでの天気のよさは一変し、雨が降り

でした。僕らの帰りを惜しむかのような。村の方からは「ありがとう」「楽しかった」「また来てね」の声。イベントのスタッフからも「ありがとう、おかげで盛り上がった」などと言ってもらえた。



フリードリンクコーナーは、一日中大忙し！



ちょっぴり地味な駐車場への誘導の仕事を自ら志願してくれました。

帰りのバスにて

この日の帰りのバスは充実感に溢れた感想でいっぱいだった。「村の人とたくさん話ができた。」「村の人がみんな笑顔で、自分も一日中笑顔でいれた。こんなの久しぶりだ。こっちの方が元気をもらった。」「いつもありがとうと言われ、今までの活動で積み上げてきたものがどれだけ大きかったか実感した。」「以前がれき撤去をしたところで子供が楽しそうに鬼ごっこをしていて、自分の活動が役に立っていたんだと思えて嬉しかった。」などなど、嬉しい声ばかりだった。

この活動のエントリーを募集したとき、初めはバス 1 台分で募集をしたのだが、一瞬で満員になってしまった。韓国へ出張前の李先生に「もう 1 台出して下さい」と無理を言うてお願いをしたのだが、あとき無理を言ってよかったと思えた。

この野田村のみんなの笑顔をいつまでも見たい。これからもずっとこんな活動が続き、元気を与え合える仲でいたい。もっともっと元気な野田村の姿を村のみんなと一緒に見たい。あー、卒業したくない！

(理工学部四年 南部真人)